

日展豊科近美で来春

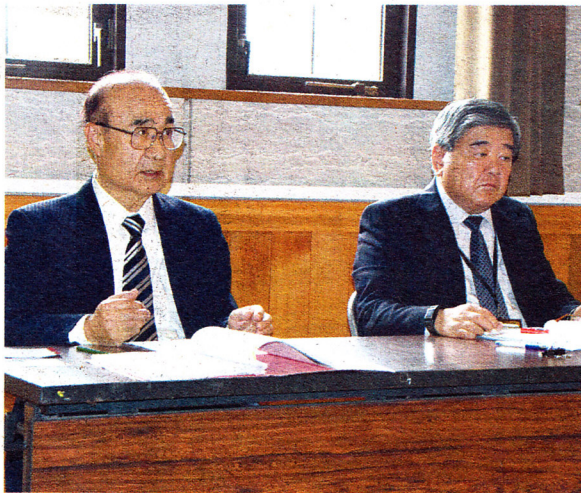
4月25日から 10万都市開催珍しく

安曇野市豊科近代美術館を管理運営する安曇野文化財団(長崎大幸理事長)は20日、同美術館で記者会見し、国内最大規模の公募美術展「改組新第6回日展」の巡回展が、来年4月25日から5月17日までの23日間、同美術館で開かれることになったと発表した。県内では過去に松本市美術館や長野市の県信濃美術館で巡回展が行われたが、近代美術館では初めてで、10万人前後の地方都市での開催も珍しい。

(浅井文人)

ることができる、まれな機会。多くの方々に来館してもらえよう職員一同頑張っている」と述べた。

第6回日展は本展が今秋から東京都の国立新美術館で行われた後、安曇野のほか京都、名古屋、大阪、金沢、長崎の各都市を巡回する。安曇野では「改組新第6回日展安曇野展」と題して公益社団法人日展・安曇野文化財団、豊科近代美術館が主催する見込みだ。日本画、洋画、彫刻、工芸美術、書の入選、無鑑査の作品のうち約250〜300点が展示される。観覧料は未定だが、中学生以下は無料とする。巡回展は通常、大都市や県庁所在地などで開催されることが多い。長崎理事長は「日展側も地方都市で行うテστοケースとしてみたい」という考えもあった」と話していた。過去には、改組前の巡回展が平成26年に鳥取県米子市(現在の人口は約14万人)で行われた例がある。



記者会見する長崎理事長(左)と豊科近代美術館の荒深重徳館長

近代彫刻の先駆者・荻原礫山や、文化勲章を受けた漆芸家・高橋節郎さんら一流の芸術家を輩出した安曇野で、残雪の北アルプスが美しい季節の日展巡回展が、関係者の熱意で実現する。長崎理事長は会見で「身近で日本最高の日展作品を見

ることができ、まれな機会。多くの方々に来館してもらえよう職員一同頑張っている」と述べた。

第6回日展は本展が今秋から東京都の国立新美術館で行われた後、安曇野のほか京都、名古屋、大阪、金沢、長崎の各都市を巡回する。安曇野では「改組新第6回日展安曇野展」と題して公益社団法人日展・安曇野文化財団、豊科近代美術館が主催する見込みだ。日本画、洋画、彫刻、工芸美術、書の入選、無鑑査の作品のうち約250〜300点が展示される。観覧料は未定だが、中